

プロ革派結成の歴史的意義

同志諸君！

反革命行為たる同志肅清を引き起した「新党」は、従つてその源流たるプロト赤軍派の闘争は、これに学び継承し、止揚し、発展させられべき何物もないのか？

同志肅清を引き起した以上、赤軍派の闘いは、一切合財抹殺され、清算し尽して、新規まさ直しで出直すのが、一番プロタリヤ的マルクス・レーニン主義的道なのか？

赤軍派と「新党」の中には、時宜に適した正しい思想的・政治的志向は、存在しなかつたのか？

或いは、この正しい志向を実現すべき、マルクス・レーニン主義のプロレタリア革命家は一人もいなかつたのか？

正しい思想的・政治的組織性志向抜きに、軽井沢銃撃戦はただただ、小ブル急進性と決意のみでやられたのか？

連赤一「新党」は、ブルジョア共や「左」右の小ブル日和見主義の「野合」の見本であり、もっとも至明のありふれた思想や政治や組織の原則を踏みはずして幼稚極まる誤ちなのかな？否、断じて否！

過渡期世界論を主張する方向性を持った、反動的な孔子孟子の儒教思想を核とするブルジョア思想と闘い、マルクス・レーニン主義のプロレタリア革命思想を保持し、また、小ブルジョア革命主義の反スターツ・トロツキズムと、反米愛国の大澤東教条主義を批判し、清算主義の小ブル日和見主義を批判し、第三世界的民族解放・社会主義革命とこれ支えるプロレタリア

国家の根拠地化と継続革命と結合し、先進資本主義国で、これ

生したことわざではない。

「新党」は全員で一丸となり、その小ブル民族主義・民主主義の革命運動の指導思想たる毛沢東思想を掲げた、プロ独・社会主義革命路線を追求し、この思想・政治路線の下での、プロレタリア革命戦争の反帝反米の攻撃的峰起を追求する、プロレタリア新党創建の闘いであり、また鉄による殲滅戦と、プロ独の規律を真に追求せんとし、この為に全生命を捧げ尽した十二名のプロ革命家の闘いがいたではないか！我々は、この輝しい十一名の同志達の遺志を引き継ぎ、血の跡を踏みしめて前進してゆかなければならぬ！

十二名の同志達は、我々が七〇年代革命闘争に出陣してゆく為の最も輝しい出撃基地なのだ。確かに我々は、連赤問題を回避しても、他の革命的同志達の闘い、例えば、あの五二〇闘争に代表されるアラブ赤軍の同志達の闘いを避け難い。しかし、我々は敢て連赤問題を回避した地平で再出発しない、また、我々は連赤問題を正面から総括することによって十分再出発できるのだ。なぜならば、この中に

はプロレタリア革命派の十二名の同志と、この同志の遺志を引き継いだ軽井沢銃撃戦があるからである。

プロ革派結成報告

我々は、「肅清」が世界、日本階級闘争の新たな段階たる世界革命戦争の防禦から対峙への移行、鉄による殲滅戦とプロ独の規律秩序を実現しなければならないという課題、この課題を荷い抜く思想路線、政治路線と党建設を闘いとしなければならないという、日本革命的左翼が初めて到達した前人未踏の地平で

の思想を基礎とする武士道精神、皇軍思想等の日本の儒教思想に依拠し、この思想と照応する思想運動と自権力運動を組織し、反革命行為たる同志肅清を引き起した「新党」は、従つてその源流たるプロト赤軍派の闘争は、これに学び継承し、止揚し、発展させられべき何物もないのか？

同志肅清を引き起した以上、赤軍派の闘いは、一切合財抹殺され、清算し尽して、新規まさ直しで出直すのが、一番プロタリヤ的マルクス・レーニン主義的道なのか？

赤軍派と「新党」の中には、時宜に適した正しい思想的・政治的志向は、存在しなかつたのか？

或いは、この正しい志向を実現すべき、マルクス・レーニン主義のプロレタリア革命家は一人もいなかつたのか？

正しい思想的・政治的組織性志向抜きに、軽井沢銃撃戦はただただ、小ブル急進性と決意のみでやられたのか？

連赤一「新党」は、ブルジョア共や「左」右の小ブル日和見主義の「野合」の見本であり、もっとも至明のありふれた思想や政治や組織の原則を踏みはずして幼稚極まる誤ちなのかな？否、断じて否！

過渡期世界論を主張する方向性を持った、反動的な孔子孟子の儒教思想を核とするブルジョア思想と闘い、マルクス・レーニン主義のプロレタリア革命思想を保持し、また、小ブルジョア革命主義の反スターツ・トロツキズムと、反米愛国の大澤東教条主義を批判し、清算主義の小ブル日和見主義を批判し、第三世界的民族解放・社会主義革命とこれ支えるプロレタリア

国家の根拠地化と継続革命と結合し、先進資本主義国で、これ

のメンシェヴィキや反米愛国派や反スターツ・トロツキズムの「左」の本質が反スターツ・トロツキズムとの毛沢東教条主義の同時相互正の8・25共闘と「左」の伝や赤報等のノサバリ、中核の内ゲバ闘争等の構団が崩壊し始めて連赤と「新党」の指導部派も進歩性、革命性をもつていたこと。つまり、銃による殲滅戦に評価し、民族解放・社会主義革命と継続革命をしつかり結合放・社会主義革命の闘いを正当化する、プロ独の第一段階たる過激的蜂起を追求する、プロレタリア新党創建の闘いであり、また鉄による殲滅戦と、プロ独の規律を真に追求せんとし、この為に全生命を捧げ尽した十二名のプロ革命家の闘いがいたのではないか！我々は、この輝しい十一名の同志達の遺志を引き継ぎ、血の跡を踏みしめて前進してゆかなければならぬ！

十二名の同志達は、我々が七〇年代革命闘争に出陣してゆく為の最も輝しい出撃基地なのだ。確かに我々は、連赤問題を回避しても、他の革命的同志達の闘い、例えば、あの五二〇闘争に代表されるアラブ赤軍の同志達の闘いを避け難い。しかし、我々は敢て連赤問題を回避した地平で再出発しない、また、我々は連赤問題を正面から総括することによって十分再出発できるのだ。なぜならば、この中に

はプロレタリア革命派の十二名の同志と、この同志の遺志を引き継いだ軽井沢銃撃戦があるからである。

我々は、「肅清」が世界、日本階級闘争の新たな段階たる世界革命戦争の防禦から対峙への移行、鉄による殲滅戦とプロ独の規律秩序を実現しなければならないという課題、この課題を荷い抜く思想路線、政治路線と党建設を闘いとしなければならないという、日本革命的左翼が初めて到達した前人未踏の地平で

の思想を基礎とする武士道精神、皇軍思想等の日本の儒教思想に依拠し、この思想と照応する思想運動と自権力運動を組織し、反革命行為たる同志肅清を引き起したこと、この限られた連赤と「新党」の指導部派は、プロ独の規律、作風、秩序をもたらなければならぬこと、つまり、銃による殲滅戦に評価し、民族解放・社会主義革命と継続革命をしつかり結合放・社会主義革命の闘いを正当化する、プロ独の規律を真に追求せんとし、この為に全生命を捧げ尽した十二名のプロ革命家の闘いがいたのではないか！我々は、この輝しい十一名の同志達の遺志を引き継ぎ、血の跡を踏みしめて前進してゆかなければならぬ！

十二名の同志達は、我々が七〇年代革命闘争に出陣してゆく為の最も輝しい出撃基地なのだ。確かに我々は、連赤問題を回避しても、他の革命的同志達の闘い、例えば、あの五二〇闘争に代表されるアラブ赤軍の同志達の闘いを避け難い。しかし、我々は敢て連赤問題を回避した地平で再出発しない、また、我々は連赤問題を正面から総括することによって十分再出発できるのだ。なぜならば、この中に

はプロレタリア革命派の十二名の同志と、この同志の遺志を引き継いだ軽井沢銃撃戦があるからである。

我々は、「肅清」が世界、日本階級闘争の新たな段階たる世界革命戦争の防禦から対峙への移行、鉄による殲滅戦とプロ独の規律秩序を実現しなければならないという課題、この課題を荷い抜く思想路線、政治路線と党建設を闘いとしなければならないという、日本革命的左翼が初めて到達した前人未踏の地平で

の思想を基礎とする武士道精神、皇軍思想等の日本の儒教思想に依拠し、この思想と照応する思想運動と自権力運動を組織し、反革命行為たる同志肅清を引き起したこと、この限られた連赤と「新党」の指導部派は、プロ独の規律、作風、秩序をもたらなければならぬこと、つまり、銃による殲滅戦に評価し、民族解放・社会主義革命と継続革命をしつかり結合放・社会主義革命の闘いを正当化する、プロ独の規律を真に追求せんとし、この為に全生命を捧げ尽した十二名のプロ革命家の闘いがいたのではないか！我々は、この輝しい十一名の同志達の遺志を引き継ぎ、血の跡を踏みしめて前進してゆかなければならぬ！

十二名の同志達は、我々が七〇年代革命闘争に出陣してゆく為の最も輝しい出撃基地なのだ。確かに我々は、連赤問題を回避しても、他の革命的同志達の闘い、例えば、あの五二〇闘争に代表されるアラブ赤軍の同志達の闘いを避け難い。しかし、我々は敢て連赤問題を回避した地平で再出発しない、また、我々は連赤問題を正面から総括することによって十分再出発できるのだ。なぜならば、この中に

はプロレタリア革命派の十二名の同志と、この同志の遺志を引き継いだ軽井沢銃撃戦があるからである。

我々は、「肅清」が世界、日本階級闘争の新たな段階たる世界革命戦争の防禦から対峙への移行、鉄による殲滅戦とプロ独の規律秩序を実現しなければならないという課題、この課題を荷い抜く思想路線、政治路線と党建設を闘いとしなければならないという、日本革命的左翼が初めて到達した前人未踏の地平で

の思想を基礎とする武士道精神、皇軍思想等の日本の儒教思想に依拠し、この思想と照応する思想運動と自権力運動を組織し、反革命行為たる同志肅清を引き起したこと、この限られた連赤と「新党」の指導部派は、プロ独の規律、作風、秩序をもたらなければならぬこと、つまり、銃による殻滅戦に評価し、民族解放・社会主義革命と継続革命をしつかり結合放・社会主義革命の闘いを正当化する、プロ独の規律を真に追求せんとし、この為に全生命を捧げ尽した十二名のプロ革命家の闘いがいたのではないか！我々は、この輝しい十一名の同志達の遺志を引き継ぎ、血の跡を踏みしめて前進してゆかなければならぬ！

十二名の同志達は、我々が七〇年代革命闘争に出陣してゆく為の最も輝しい出撃基地なのだ。確かに我々は、連赤問題を回避しても、他の革命的同志達の闘い、例えば、あの五二〇闘争に代表されるアラブ赤軍の同志達の闘いを避け難い。しかし、我々は敢て連赤問題を回避した地平で再出発しない、また、我々は連赤問題を正面から総括することによって十分再出発できるのだ。なぜならば、この中に

はプロレタリア革命派の十二名の同志と、この同志の遺志を引き継いだ軽井沢銃撃戦があるからである。

我々は、「肅清」が世界、日本階級闘争の新たな段階たる世界革命戦争の防禦から対峙への移行、鉄による殻滅戦とプロ独の規律秩序を実現しなければならないという課題、この課題を荷い抜く思想路線、政治路線と党建設を闘いとしなければならないという、日本革命的左翼が初めて到達した前人未踏の地平で

無政府的党内闘争、サークル化の沿地へのめり込んでいたのである。ここに於ける我々の闘争は、連赤敗北以降の反動の嵐には、連赤敗北以降の反動の嵐にのみ込まれた小ブル日和見主義・清算主義との熾烈な党内闘争であり小ブル的ではあれ、思想問題を軸とした連赤総括と言ふ正しい歩を踏み出しながらも、路線なき路線と体现される臨終路線の合法マルクス主義・組合主義・経済主義をあばき出し、死水を取つたのである。しかしながら、ここに於ける獄外でのプロ革派を志すは労働の社会的生産力の発展は、

向する部分の路線軽視・放棄があり、その指導的同志の路線軽視の個人主義・陰謀政治・宫廷主義下部同志の党建設への待期主義・地方分権主義を徹底的に切開し、自己批判していかねばならない。

そして、我々は、連赤一「新党」の苦難と挫折、その教訓を何ら真剣に総括し、学ぶことなく、その根本にある思想問題を切開せず、様々なブルジョア、小ブルジョア思想を温存し、一方における反スタ・トロツキズ

ムや他方における毛教派へと回帰していく「左」からの清算主義(この傾向は、現在的には同盟的混亂を引き起したのである)、二七プロ闘派としての「左」5・15潮流に典型的に代表される翼日和見主義との闘いを、連赤

時代の眞剣に総括する中で、それと不可分一体の中間主義と政治的折衷主義に対する闘いを推し進めて来た。そして、それは、マルクス・レーニン主義を真剣に学習し、全党的な教育・学習運動として組織し、組織全体の理論的水準を向上させて正しい

行為を必要とする。従って、世界アプロードとなり、基本性格を貫徹つつ、このこの闘いに内包され、つまり根拠地化と継続運動として、一国アプロードで武装して、全国社会主義の存立の位置・革命を条件として、一国アプロードが復活し、社会主義の仮面をかぶつた帝国主義たる社会帝国主義は極めて低い段階の、不純な特殊な社会主義である。この様な社会主義は、正しい指導がない場合、資本主義と資本家勢力が復活し、社会主義の仮面をかぶつた帝国主義たる社会帝国

アートによって規定され、これに規定された生産手段を所有する支配階級と無所有の被支配階級の階級闘争とされる。この場合的唯物論によつてこそ、唯物論の歴史觀によつてこそ、物の統一と闘争の法則によつて推进されている物質で構成され互に切り離さず、結びついた物質とその運動、その刻心が対立する、観念論の唯心論に対しても、プロレタリアートは、世界を相手に理解することが出来る。ロレタリアートは、自己の任務を鮮明に理解することが出来るのです。

資本主義と科学的共産主義

(3) 資本生産の最大の特質は、生産手段の私有に基づく資本家階級の、労働力を売る以外に生きていけない労働者を強制的に労働させ、剩余価値を榨取する、貨幣奴隸制にあります。ここでは労働の社会的生産力の発展は、

解取・隸屬・抑圧は強いられることによって、今一層の搾取されることによって、今一層の搾取・隸屬・抑圧され、更に、相對的過剰人口が、農民や他の階級の、労働力を売る以外に生きていけない労働者を強制的に労働させ、剩余価値を榨取する、

トは祖国をもたず、生産から国

・ 国内帝國主義にプロレタリアート独裁を強制する世界II国内の自解放の自覚は、マルクス5・15潮流に典型的に代表される翼日和見主義との闘いを連赤総括と路線闘争を組織する中で、ある。

ムや他方における毛教派へと向する中で、プロレタリア革命派としての眞剣的・路線的純化能である。しかし、資本主義は、最初から一举に打倒されると一国あるいは、数ヶ国からアプロード社会主義に組織されていくためから、一国アプロードは、数ヶ国からアプロードが必要となる。従つて、世

界アプロードとなり、基本性格を貫徹つつ、このこの闘いに内包され、つまり根拠地化と継続運動として、一国アプロードで武装して、全国社会主義の存立の位置・革命を条件として、一国アプロードが復活し、社会主義の仮面をかぶつた帝国主義たる社会帝国

アートによって規定され、これに規定された生産手段を所有する支配階級と無所有の被支配階級の階級闘争とされる。この場合的唯物論によつてこそ、唯物論の歴史觀によつてこそ、物の統一と闘争の法則によつて推进されている物質で構成され互に切り離さず、結びついた物質とその運動、その刻心が対立する、観念論の唯心論に対しても、プロレタリアートは、世界を相手に理解することが出来る。ロレタリアートは、自己の任務を鮮明に理解することが出来るのです。

アラブ赤軍の断固支持！

共産同赤軍派（プロ革）

① ブルジョアジーの世界觀たる事物を静止して相互に切り離して、一面的にみる形而上学の觀念や、「絶対精神」「心」「思惟」あるいは、「永遠の正義」「孝悌」「忠恕」「人倫の道」等の「道徳的倫理」等を中心にして世界を把握、觀念論の唯心論に対しても、プロレタリアートは、世界を相手に理解することが出来る。しかしながら、ここに於ける獄外でのプロ革派を志すは労働の社会的生産力の発展は、

解取・隸屬・抑圧は強いられることによって、今一層の搾取・隸屬・抑圧され、更に、相對的過剰人口が、農民や他の階級の、労働力を売る以外に生きていけない労働者を強制的に労働させ、剩余価値を榨取する、

トは祖国をもたず、生産から国

・ 国内帝國主義にプロレタリアート独裁を強制する世界II国内の自解放の自覚は、マルクス5・15潮流に典型的に代表される翼日和見主義との闘いを連赤総括と路線闘争を組織する中で、ある。

ムや他方における毛教派へと向する中で、プロレタリア革命派としての眞剣的・路線的純化能である。しかし、資本主義は、最初から一举に打倒されると一国あるいは、数ヶ国からアプロード社会主義に組織されていくためから、一国アプロードは、数ヶ国からアプロードが必要となる。従つて、世

界アプロードとなり、基本性格を貫徹つつ、このこの闘いに内包され、つまり根拠地化と継続運動として、一国アプロードで武装して、全国社会主義の存立の位置・革命を条件として、一国アプロードが復活し、社会主義の仮面をかぶつた帝国主義たる社会帝国

アートによって規定され、これに規定された生産手段を所有する支配階級と無所有の被支配階級の階級闘争とされる。この場合的唯物論によつてこそ、唯物論の歴史觀によつてこそ、物の統一と闘争の法則によつて推进されている物質で構成され互に切り離さず、結びついた物質とその運動、その刻心が対立する、観念論の唯心論に対しても、プロレタリアートは、世界を相手に理解することが出来る。ロレタリアートは、自己の任務を鮮明に理解することが出来るのです。

弁証法的唯物論・史的唯物論
① ブルジョアジーの世界觀たる事物を静止して相互に切り離して、一面的にみる形而上学の觀念や、「絶対精神」「心」「思惟」あるいは、「永遠の正義」「孝悌」「忠恕」「人倫の道」等の「道徳的倫理」等を中心にして世界を把握、觀念論の唯心論に対しても、プロレタリアートは、世界を相手に理解することが出来る。しかしながら、ここに於ける獄外でのプロ革派を志すは労働の社会的生産力の発展は、

解取・隸屬・抑圧され、更に、相對的過剰人口が、農民や他の階級の、労働力を売る以外に生きていけない労働者を強制的に労働させ、剩余価値を榨取する、

トは祖国をもたず、生産から国

・ 国内帝國主義にプロレタリアート独裁を強制する世界II国内の自解放の自覚は、マルクス5・15潮流に典型的に代表される翼日和見主義との闘いを連赤総括と路線闘争を組織する中で、ある。

ムや他方における毛教派へと向する中で、プロレタリア革命派としての眞剣的・路線的純化能である。しかし、資本主義は、最初から一举に打倒されると一国あるいは、数ヶ国からアプロード社会主義に組織されていくためから、一国アプロードは、数ヶ国からアプロードが必要となる。従つて、世

界アプロードとなり、基本性格を貫徹つつ、このこの闘いに内包され、つまり根拠地化と継続運動として、一国アプロードで武装して、全国社会主義の存立の位置・革命を条件として、一国アプロードが復活し、社会主義の仮面をかぶつた帝国主義たる社会帝国

アートによって規定され、これに規定された生産手段を所有する支配階級と無所有の被支配階級の階級闘争とされる。この場合的唯物論によつてこそ、唯物論の歴史觀によつてこそ、物の統一と闘争の法則によつて推进されている物質で構成され互に切り離さず、結びついた物質とその運動、その刻心が対立する、観念論の唯心論に対しても、プロレタリアートは、世界を相手に理解することが出来る。ロレタリアートは、自己の任務を鮮明に理解することが出来るのです。

弁証法的唯物論・史的唯物論
② 歴史をプロレタリアートは、英雄や天才や征服者たちの遇然の行為の集積とは把えない。勿論、「神」や「永遠の正義」、「絶対精神」の真現とは把えない。勿論、「心」、「思惟」、「忠恕」、「人倫の道」等の「道徳的倫理」等を中心にして世界を把握、觀念論の唯心論に対しても、プロレタリアートは、世界を相手に理解することが出来る。しかしながら、ここに於ける獄外でのプロ革派を志すは労働の社会的生産力の発展は、

解取・隸屬・抑圧され、更に、相對的過剰人口が、農民や他の階級の、労働力を売る以外に生きていけない労働者を強制的に労働させ、剩余価値を榨取する、

トは祖国をもたず、生産から国

・ 国内帝國主義にプロレタリアート独裁を強制する世界II国内の自解放の自覚は、マルクス5・15潮流に典型的に代表される翼日和見主義との闘いを連赤総括と路線闘争を組織する中で、ある。

ムや他方における毛教派へと向する中で、プロレタリア革命派としての眞剣的・路線的純化能である。しかし、資本主義は、最初から一举に打倒されると一国あるいは、数ヶ国からアプロード社会主義に組織されていくためから、一国アプロードは、数ヶ国からアプロードが必要となる。従つて、世

界アプロードとなり、基本性格を貫徹つつ、このこの闘いに内包され、つまり根拠地化と継続運動として、一国アプロードで武装して、全国社会主義の存立の位置・革命を条件として、一国アプロードが復活し、社会主義の仮面をかぶつた帝国主義たる社会帝国

アートによって規定され、これに規定された生産手段を所有する支配階級と無所有の被支配階級の階級闘争とされる。この場合的唯物論によつてこそ、唯物論の歴史觀によつてこそ、物の統一と闘争の法則によつて推进されている物質で構成され互に切り離さず、結びついた物質とその運動、その刻心が対立する、観念論の唯心論に対しても、プロレタリアートは、世界を相手に理解することが出来る。ロレタリアートは、自己の任務を鮮明に理解することが出来るのです。

弁証法的唯物論・史的唯物論
③ 資本生産の最大の特質は、生産手段の私有に基づく資本家階級の、労働力を売る以外に生きていけない労働者を強制的に労働させ、剩余価値を榨取する、

トは祖国をもたず、生産から国

・ 国内帝國主義にプロレタリアート独裁を強制する世界II国内の自解放の自覚は、マルクス5・15潮流に典型的に代表される翼日和見主義との闘いを連赤総括と路線闘争を組織する中で、ある。

ムや他方における毛教派へと向する中で、プロレタリア革命派としての眞剣的・路線的純化能である。しかし、資本主義は、最初から一举に打倒されると一国あるいは、数ヶ国からアプロード社会主義に組織されていくためから、一国アプロードは、数ヶ国からアプロードが必要となる。従つて、世

界アプロードとなり、基本性格を貫徹つつ、このこの闘いに内包され、つまり根拠地化と継続運動として、一国アプロードで武装して、全国社会主義の存立の位置・革命を条件として、一国アプロードが復活し、社会主義の仮面をかぶつた帝国主義たる社会帝国

アートによって規定され、これに規定された生産手段を所有する支配階級と無所有の被支配階級の階級闘争とされる。この場合的唯物論によつてこそ、唯物論の歴史觀によつてこそ、物の統一と闘争の法則によつて推进されている物質で構成され互に切り離さず、結びついた物質とその運動、その刻心が対立する、観念論の唯心論に対しても、プロレタリアートは、世界を相手に理解することが出来る。ロレタリアートは、自己の任務を鮮明に理解することが出来るのです。

ムや他方における毛教派へと向する中で、プロレタリア革命派としての眞剣的・路線的純化能である。しかし、資本主義は、最初から一举に打倒されると一国あるいは、数ヶ国からアプロード社会主義に組織されていくためから、一国アプロードは、数ヶ国からアプロードが必要となる。従つて、世

界アプロードとなり、基本性格を貫徹つつ、このこの闘いに内包され、つまり根拠地化と継続運動として、一国アプロードで武装して、全国社会主義の存立の位置・革命を条件として、一国アプロードが復活し、社会主義の仮面をかぶつた帝国主義たる社会帝国

アートによって規定され、これに規定された生産手段を所有する支配階級と無所有の被支配階級の階級闘争とされる。この場合的唯物論によつてこそ、唯物論の歴史觀によつてこそ、物の統一と闘争の法則によつて推进されている物質で構成され互に切り離さず、結びついた物質とその運動、その刻心が対立する、観念論の唯心論に対しても、プロレタリアートは、世界を相手に理解することが出来る。ロレタリアートは、自己の任務を鮮明に理解することが出来るのです。

ことはできないし、そんな力がないが故に、米帝ナショナリズムに反撲しつつも、これに妥協しつつ、この蓄積構造と國際反革命体制を再編・強化していく以外に延命の道はないこと、かかる米帝を軸とする不完全極まる国際的・一国的二プロック人民の世界社会主義革命の追求を圧殺しつつ、更に一層、第二世界人民と資本主義国内プロ人民に矛盾を転嫁し、犠牲を強いる以外にブルジョアの解決を見いだして更なる新植民地主義に従つて更なる新植民地主義へのめり込むか、中国側の民族解放・社会主義革命を選択するかの岐路に一層シビアに立されてる。かくして、帝国主義の蓄積構造の再編強化は第三世界の岐路で、社会主義革命を選択するかの岐路に立つ。かくして、帝國主義の人民の民族解放・社会主義革命を激化させ、革命戦争に対し、プロレタリア国家は、これを支持し、この大後方となり、根拠地化して、

(10) 日本国王義は、多国的大陸的社会主義革命が、国内外の蓄積構造を、六五年不況と日韓条約締結を期に六〇年代中期に確立し、以降第二次大蔵構造は、民族解放とアジア大蔵構造は、民族解放とアジア大蔵構造は、米帝世界体制の動揺に伴う世紀半に実現した。しかしこの蓄積構造は、民族解放とアジア大陸社会主義ベルトに逆回帰された米帝世界体制の動揺に伴う世紀半に実現した。しかしこの蓄積構造は、民族解放とアジア大陸社会主義ベルトに逆回帰された。

保体制の動揺、第三世界の民族解放・社会主義革命の激化に伴う摂取・収奪・抑圧の限界、帝國主義不均等発展や途上国の経済的反撃の集中、強蓄積に伴う米帝人民への矛盾の転嫁から、プロ人民のプロ独・社会主義革命运の発展によって、崩壊にひん

ることと一体に本国の継続革命を強化していくか、それともこれを敵対し、帝国主義を救済し、ついで、この蓄積構造と國際反革命体制を再編・強化していく以外に延命の道はないこと、かかる米帝を軸とする不完全極まる国際的・一国的二プロック人民の世界社会主義革命の追求を圧殺しつつ、更に一層、第二世界人民と資本主義国内プロ人民に矛盾を転嫁し、犠牲を強いる以外にブルジョアの解決を見いだして更なる新植民地主義に従つて更なる新植民地主義へのめり込むか、中国側の民族解放・社会主義革命を選択するかの岐路に立つ。かくして、帝國主義の人民の民族解放・社会主義革命を激化させ、革命戦争に対し、プロレタリア国家は、これを支持し、この大後方となり、根拠地化して、

日本帝國主義は、多国的大陸的社会主義革命が、国内外の蓄積構造を、六五年不況と日韓条約締結を期に六〇年代中期に確立し、以降第二次大蔵構造は、民族解放とアジア大陸社会主義ベルトに逆回帰された米帝世界体制の動揺に伴う世紀半に実現した。しかしこの蓄積構造は、民族解放とアジア大陸社会主義ベルトに逆回帰された。

した。今や日本の、米帝・西歐帝・途上国との関係は先鋭化し、過剰資本を慢性的に構造化させ、恐慌の機会にさらされているが、米帝・西歐帝と違つて、独自の勢力圏を完全に構築することができず、より從属的関係を深めている。日本は、強蓄積の国際的・政治的・経済的諸条件の裏面構造を構築し得ること

（11）かかる日帝ブルジョアジーの世界革命“反中國”として排出すべく世界帝国主義体制を救出すべく世界帝国主義の空隙に侵出し、世界市場の再分割戦を開始している。しかし、帝國主義と社會帝國主義の連合と分割の世界体制は、世界革命戦争の前進によって引き出されたものであるが、被打破つてしまつのが、歴史の必然である。

日本（世界）革命の基本性格 法体制からのブルジョア独裁の底辺解決としての、東南アジアの最終東をなしくぐす的に円

（12）以上からしてプロレタリア日本革命（世界革命）の性格は、反日帝・反米帝・反社帝の世界共産主義（社会主義）を展望して、世界革命戦争を開始する。しかし、帝國主義と社會帝國主義の連合と分割の世界体制は、世界革命戦争の対峙段階の大特質であり、世界アーリアによる社会主義革命は、世界革命戦争の対峙段階の最前線革命を包含する社会主義革命の大波は、反帝反社帝世界革命の持続的展開となつて燃え広がり、最後には、両者とも打ち破つてしまつのが、歴史の必然である。

（13）我々の革命論の核心は、産業資本主義階級のマルクスが想定したような「恐慌革命論」や、あるいは古典的帝国主義階級構造を構築したこと。かくてレーニンが想定したような、帝國主義間戦争を内乱として、世界プロローブへの到達が長び、それ以前に日本国内のプロ独・社全主義革命である。反日帝・反米帝・反社帝の世界共産主義（社会主義）を展望して、世界革命戦争と分割の世界体制は、世界革命戦争の前進によって引き出されたものであるが、被打破つてしまつのが、歴史の必然である。

（14）国際帝國主義の反革命抑圧と格を決定していく。

（15）日本革命として發展していくことを、國內に資本主義が、国内生産の停滞・国内政治機会を反帝の後退の穴埋めをしつつ、帝國主義世界体制を救出すべく世界帝国主義体制を救出すべく世界帝国主義の空隙に侵出し、世界市場の再分割戦を開始している。しかし、帝國主義と社會帝國主義の連合と分割の世界体制は、世界革命戦争の対峙段階の大特質であり、世界アーリアによる社会主義革命は、世界革命戦争の対峙段階の最前線革命を包含する社会主義革命の大波は、反帝反社帝世界革命の持続的展開となつて燃え広がり、最後には、両者とも打ち破つてしまつのが、歴史の必然である。

（16）日本（世界）革命の基本性格 法体制からのブルジョア独裁の底辺解決としての、東南アジアの最終東をなしくぐす的に円

（17）以上からしてプロレタリア日本革命（世界革命）の性格は、反日帝・反米帝・反社帝の世界共産主義（社会主義）を展望して、世界革命戦争を開始する。しかし、帝國主義と社會帝國主義の連合と分割の世界体制は、世界革命戦争の前進によって引き出されたものであるが、被打破つてしまつのが、歴史の必然である。

（18）我々の革命論の核心は、産業資本主義階級のマルクスが想定したような「恐慌革命論」や、あるいは古典的帝国主義階級構造を構築したこと。かくてレーニンが想定したような、帝國主義間戦争を内乱として、世界プロローブへの到達が長び、それ以前に日本国内のプロ独・社全主義革命である。反日帝・反米帝・反社帝の世界共産主義（社会主義）を展望して、世界革命戦争と分割の世界体制は、世界革命戦争の前進によって引き出されたものであるが、被打破つてしまつのが、歴史の必然である。

（19）日本（世界）革命の基本性格 法体制からのブルジョア独裁の底辺解決としての、東南アジアの最終東をなしくぐす的に円

（20）以上からしてプロレタリア日本革命（世界革命）の性格は、反日帝・反米帝・反社帝の世界共産主義（社会主義）を展望して、世界革命戦争と分割の世界体制は、世界革命戦争の前進によって引き出されたものであるが、被打破つてしまつのが、歴史の必然である。

（21）我々の革命論の核心は、産業資本主義階級のマルクスが想定したような「恐慌革命論」や、あるいは古典的帝国主義階級構造を構築したこと。かくてレーニンが想定したような、帝國主義間戦争を内乱として、世界プロローブへの到達が長び、それ以前に日本国内のプロ独・社全主義革命である。反日帝・反米帝・反社帝の世界共産主義（社会主義）を展望して、世界革命戦争と分割の世界体制は、世界革命戦争の前進によって引き出されたものであるが、被打破つてしまつのが、歴史の必然である。

（22）以上からしてプロレタリア日本革命（世界革命）の性格は、反日帝・反米帝・反社帝の世界共産主義（社会主義）を展望して、世界革命戦争と分割の世界体制は、世界革命戦争の前進によって引き出されたものであるが、被打破つてしまつのが、歴史の必然である。

の場合は国際同盟軍は、資本主義内プロレタリアであり、従つて、資本主義の社会主義革命戦争の国際根拠地となるが、資本主義の社会主義革命戦争は、

(15)以上現代メンシェヴィズム、小ブル日和見主義者の建軍権力闘争抜きの蜂起ソヴィエト派、他方での党プロレタリア根拠地軍抜き、一国主義の小ブル革命派や、その典型、小ブル民族農民戦争派とは違う我々のプロレタリア社会主義革命戦争述した諸点を中心により詳しく分析してみる。

社会主義革命戦争の推進力、からして、下層プロレタリア、中層プロレタリアが主力となること、更に特殊には国際的な第三世界プロレタリア人民が主力となること、プロレタリア社会主義革命戦争の指導部・党は、民族農民戦争はその本質からして、ブルジョア民主主義革命であるが故に、その推進階級、農民は必らずも、マルクス主義、プロレタリアの思想を不可欠としない。即ちマルクス主義のみが諸ブルジョア、小ブルジョア思想たり得、社会主義革命戦争を理論化し、これを指導し得、プロレタリアの指導思惟たり得ること、マルクス主義以外のイデオロギーではプロレタリア党は創建され得ないものであります。

社会主義革命戦争は資本主義革命派や、その典型的な小ブル民衆運動派は、どんな特質があるのか、前述した諸点を中心により詳しく分析してみる。

小ブル日和見主義者の建軍権力闘争抜きの蜂起ソヴィエト派、他方での党プロレタリア根拠地軍抜き、一国主義の小ブル革命派や、その典型、小ブル民族農民戦争派とは違う我々のプロレタリア社会主義革命戦争述した諸点を中心により詳しく分析してみる。

社会主義革命戦争の推進力、からして、下層プロレタリア、中層プロレタリアが主力となること、更に特殊には国際的な第三世界プロレタリア人民が主力となること、プロレタリア社会主義革命戦争の指導部・党は、民族農民戦争はその本質からして、ブルジョア民主主義革命であるが故に、その推進階級、農民は必らずも、マルクス主義、プロレタリアの思想を不可欠としない。即ちマルクス主義のみが諸ブルジョア、小ブルジョア思想たり得、社会主義革命戦争を理論化し、これを指導し得、プロレタリアの指導思惟たり得ること、マルクス主義以外のイデオロギーではプロレタリア党は創建され得ないものであります。

社会主義革命戦争は資本主義革命派や、その典型的な小ブル民衆運動派は、どんな特質があるのか、前述した諸点を中心により詳しく分析してみる。

小ブル日和見主義者の建軍権力闘争抜きの蜂起ソヴィエト派、他方での党プロレタリア根拠地軍抜き、一国主義の小ブル革命派や、その典型、小ブル民族農民戦争派とは違う我々のプロレタリア社会主義革命戦争述した諸点を中心により詳しく分析してみる。

小ブル日和見主義者の建軍権力闘争抜きの蜂起ソヴィエト派、他方での党プロレタリア根拠地軍抜き、一国主義の小ブル革命派や、その典型、小ブル民族農民戦争派とは違う我々のプロレタリア社会主義革命戦争述した諸点を中心により詳しく分析してみる。

小ブル日和見主義者の建軍権力闘争抜きの蜂起ソヴィエト派、他方での党プロレタリア根拠地軍抜き、一国主義の小ブル革命派や、その典型、小ブル民族農民戦争派とは違う我々のプロレタリア社会主義革命戦争述した諸点を中心により詳しく分析してみる。

小ブル日和見主義者の建軍権力闘争抜きの蜂起ソヴィエト派、他方での党プロレタリア根拠地軍抜き、一国主義の小ブル革命派や、その典型、小ブル民族農民戦争派とは違う我々のプロレタリア社会主義革命戦争述した諸点を中心により詳しく分析してみる。

小ブル日和見主義者の建軍権力闘争抜きの蜂起ソヴィエト派、他方での党プロレタリア根拠地軍抜き、一国主義の小ブル革命派や、その典型、小ブル民族農民戦争派とは違う我々のプロレタリア社会主義革命戦争述した諸点を中心により詳しく分析してみる。

小ブル日和見主義者の建軍権力闘争抜きの蜂起ソヴィエト派、他方での党プロレタリア根拠地軍抜き、一国主義の小ブル革命派や、その典型、小ブル民族農民戦争派とは違う我々のプロレタリア社会主義革命戦争述した諸点を中心により詳しく分析してみる。

小ブル日和見主義者の建軍権力闘争抜きの蜂起ソヴィエト派、他方での党プロレタリア根拠地軍抜き、一国主義の小ブル革命派や、その典型、小ブル民族農民戦争派とは違う我々のプロレタリア社会主義革命戦争述した諸点を中心により詳しく分析してみる。

小ブル日和見主義者の建軍権力闘争抜きの蜂起ソヴィエト派、他方での党プロレタリア根拠地軍抜き、一国主義の小ブル革命派や、その典型、小ブル民族農民戦争派とは違う我々のプロレタリア社会主義革命戦争述した諸点を中心により詳しく分析してみる。

小ブル日和見主義者の建軍権力闘争抜きの蜂起ソヴィエト派、他方での党プロレタリア根拠地軍抜き、一国主義の小ブル革命派や、その典型、小ブル民族農民戦争派とは違う我々のプロレタリア社会主義革命戦争述した諸点を中心により詳しく分析してみる。

